

【第1編 経済3-2】戦後復興から高度経済成長期へ

日本経済史のあらまし すべての失った日本が復興を遂げた理由とは？

(1)戦後のハイパーインフレ対策

①新円切替=今までの紙幣を使うことができなくなる

→タンス預金も意味をなさない

②預金封鎖=引き出し制限をする

世の中に出回るお金の量を抑える秘策とは？

新円切替・預金封鎖

1946年2月（昭和21年）から実施

今までの紙幣を
使うことができません！

新しい紙幣への交換は
銀行で受け付けます！

引き出しを制限する
毎月世帯主300円
（+家族1人につき100円）

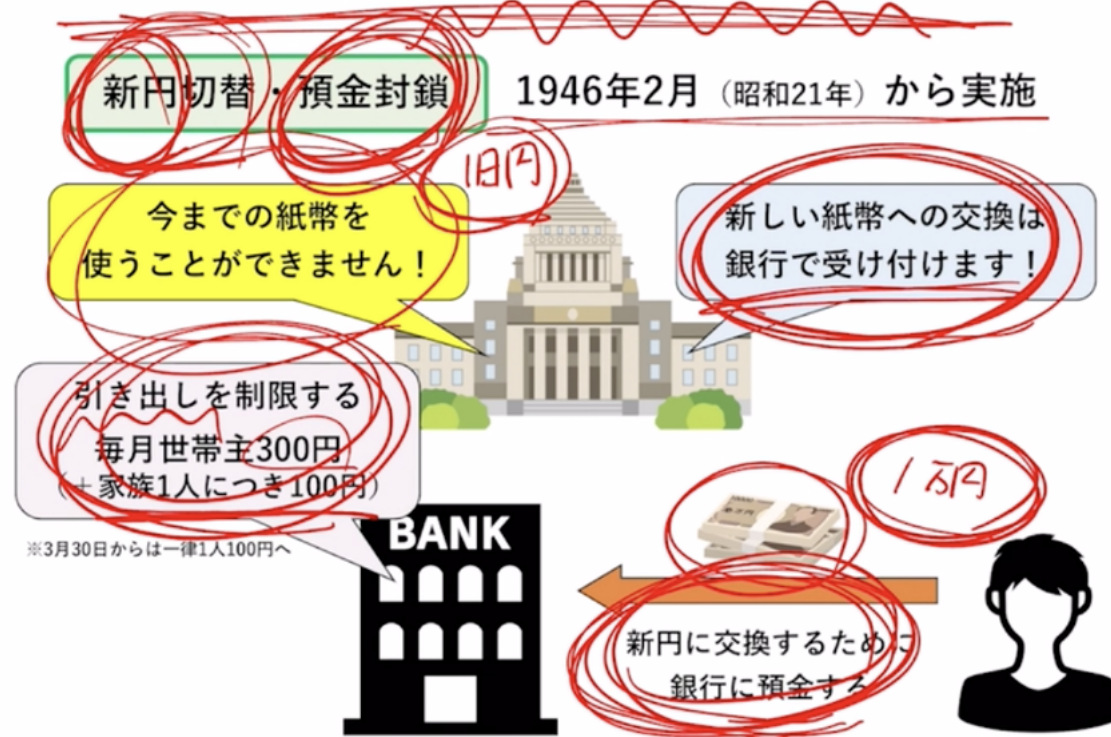
※3月30日からは一律1人100円へ

BANK

新円に交換するために
銀行に預金する

1万円

旧円



(2)経済復興の要は「鉄」と「石炭」にあり

1947年に復興金融公庫を設立

→3ヶ月毎に生産計画を策定

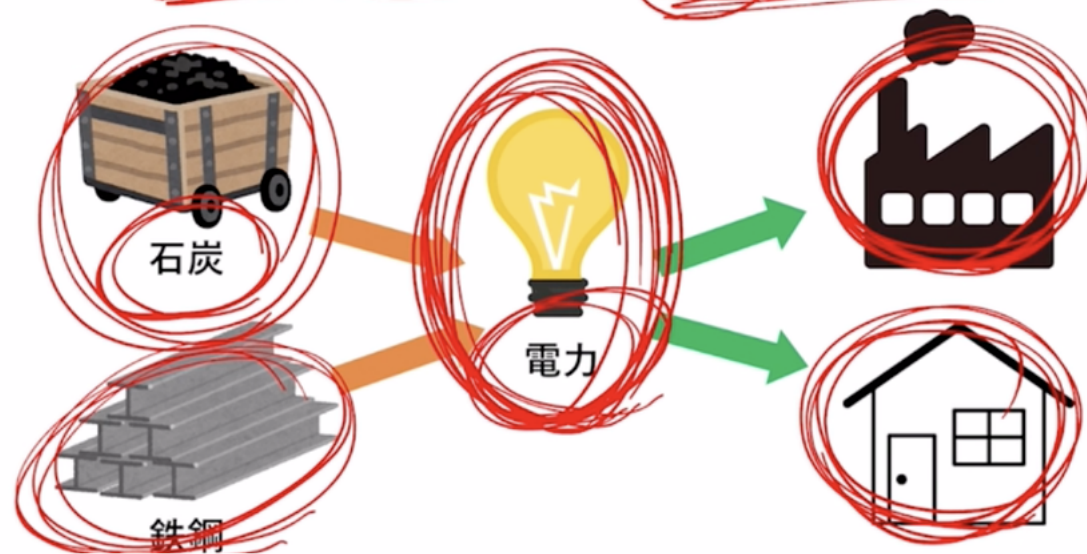
→電力が必要

→傾斜生産方式（石炭と鉄鋼に集中して融資）

経済復興の要は「鉄」と「石炭」にあり？！

1947年1月（昭和22年）復興金融公庫（政府が全額出資）を設立

→ 3ヶ月毎に生産計画を策定 産業別に融資を割り振り



(3)ハード・ピース政策からソフト・ピース政策へ

①GHQ マッカーサー元帥の来日

②反共

③貿易制限の解除、対日食糧支援の解禁

④1億3700万ドル相当の貴金属の変換

⑤賠償金を当初の3割へ

GHQの方針転換！日本の経済復興を急ぐことに

1945年8月（昭和20年）GHQ・マッカーサー元帥の来日

ハード・ピース政策

日本が二度と戦争ができないように近代工業施設を撤退

1930年の3分の1程度の生産力に！

ソフト・ピース政策

貿易制限の解除、対日食糧支援の解禁

1億3,700万ドル相当の貴金属の返還

賠償金を当初案の3割程度に削減



マッカーサー 連合国軍最高司令官

(4)単一為替レート of 導入

①1 ドル 360 円の円安で固定

②①により日本の輸出に有利

→安い人件費も功を奏す

経済成長の起爆剤となった大事件とは？

1949年4月（昭和24年）

単一為替レートの導入

→ 1ドル = 360円 非常に円安な水準のレートだった

→ 安い人件費 + 円安レート = 輸出産業の生産が向上！



(5)朝鮮戦争 (1950年6月)

→軍需景気

(例) トヨタ自動車の売上が2.5倍へ

経済成長の起爆剤となった大事件とは？

1949年4月（昭和24年）

単一為替レートの導入

→ 1ドル = 360円 非常に円安な水準のレートだった

→ 安い人件費 + 円安レート = 輸出産業の生産が向上！

朝鮮戦争

1950年6月（昭和25年）

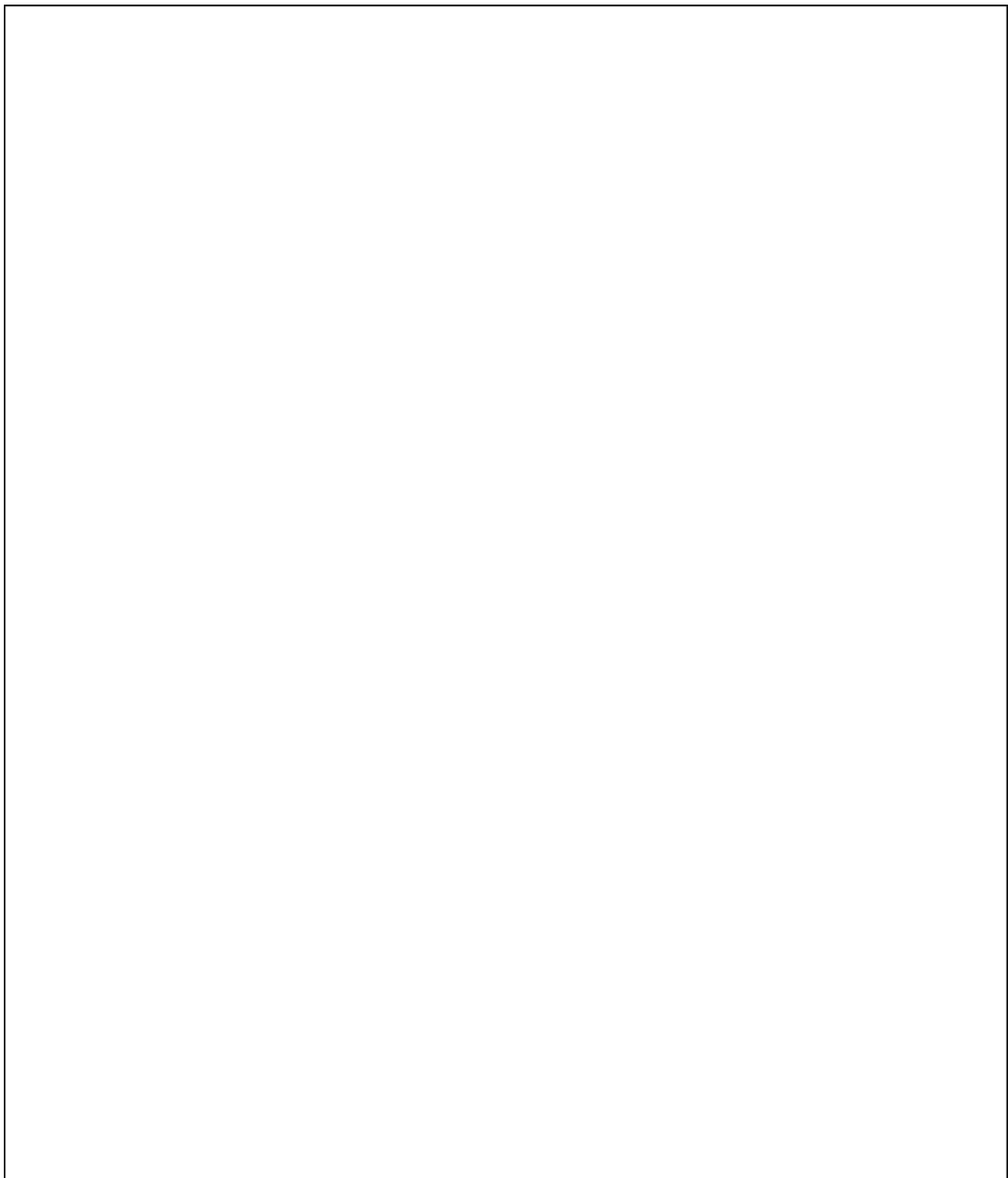
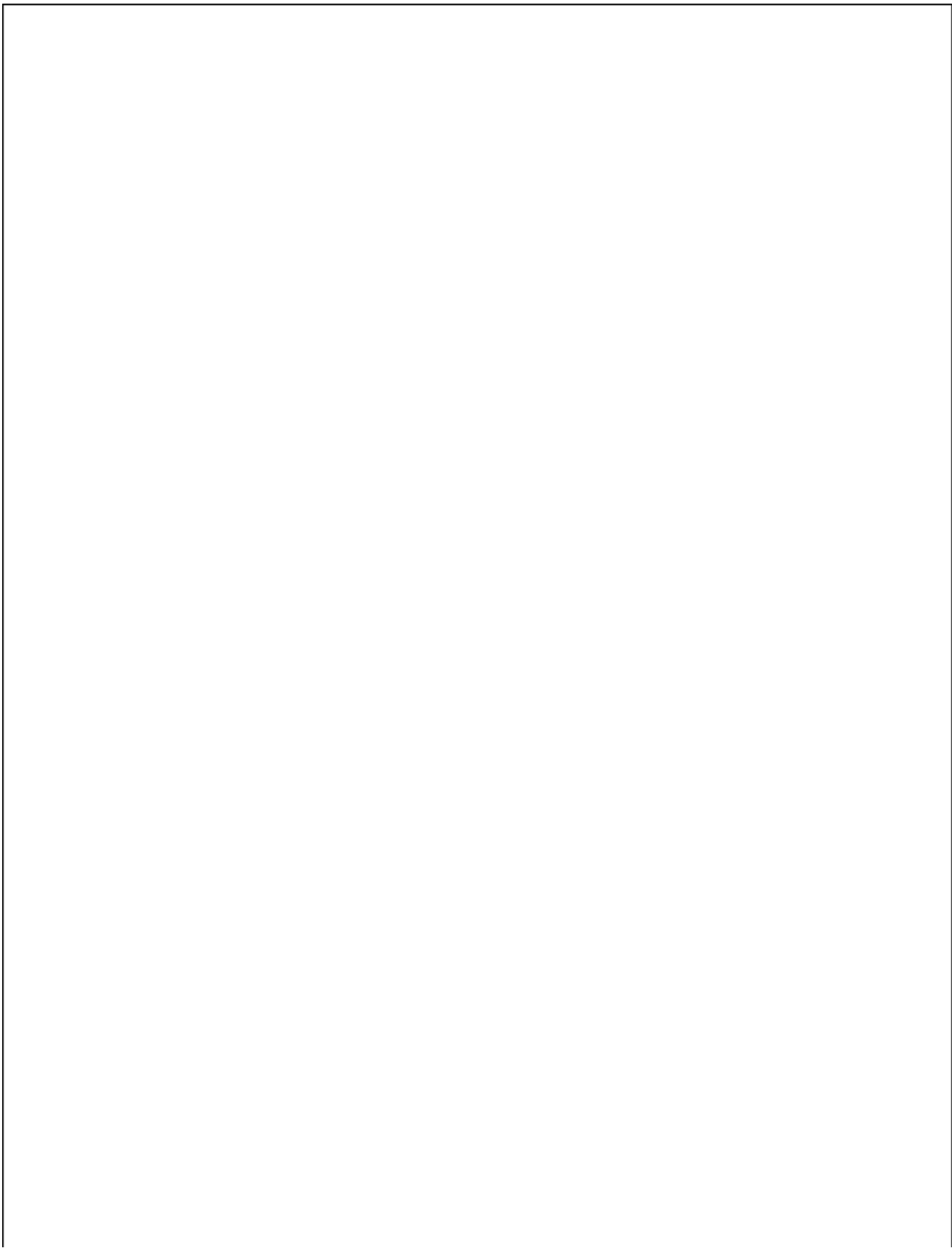
北朝鮮軍が韓国を奇襲

朝鮮戦争

→ すぐにアメリカ軍は増援を決定 7月から物資調達へ

→ 軍服、土嚢、テント、車輛修理などを日本で発注

→ トヨタ自動車の売上が2.5倍になるなど特需景気へ



③全国総合開発計画 インフラ整備による物流の確保

→東海道新幹線や東名高速道路の開通

→貯蓄増強計画、こども銀行、融資の促進

空前の高度経済成長の時代へ突入した日本

3C 全国総合開発計画（全総） **太平洋ベルト** **インフラ整備**による物流の確保

→ **東海道新幹線**や**東名高速道路**の開通

理工学系の大学・学部を整備 **技術者育成**

貯蓄増強計画 **こども銀行** **融資の促進**

日本人らしい
切ないエピソード



国民所得倍増計画は本当に達成できたのか？



1970年代前半頃まで約20年間、**年平均10%ほど**の経済成長！